

理研会報

行 理研部局
成田市立成田小学校

10.14 教研にむけて 各部会のとらぐみ

一部会

〈小学校〉
理科の授業

で、児童自身が工夫したり、考えたり、試したりする場をもつ必要があるのでないかと考える。児童は、本来、発想する能力が活発でいるという前提を立て、次のような研究主題を取り組んでいる。

『主体的に学ぶ子の育成』

——発想を生かして——

話し合いの中で、低学年では、発想の出方や発想そのものにも違いがあるのではないかとこのことになり、今年度は、授業研究の中で、児童の発想を追求してみることとした。題材は、(一) 一年：おもしろく動くおもちゃ (二) 二年：流れる水の口をどうするか (三) 三年：流れる水の口をどうするか

〈中学校〉

『生徒の興味関心を高めるための指導は、どうしたらよいか。』
——教材教具の開発工夫——
——このテーマで研究をすすめていくことにした。

第一分野では、力学教材の「液体中ではたらく力」を取り上げ、

① 水の中の力の伝わり方。

② 水の中の圧力の伝わり方。
③ 浮力と比重のようがわか。

第二分野では、

① 「花粉の発芽実験」

・花の種類と発芽条件
・夜の観察のための染色方法

② 「アフリカツメガエル」教材化

以上をわかりやすく指導できるように、
実験器具・実験方法の開発をしていく。

二部会

小学校部会
では、昨年に引き続き、地域の自然をとり入れ、

「アフリカツメガエル」教材化
以上をわかりやすく指導できるように、
実験器具・実験方法の開発をしていく。

三部会

過去十数年にわたり「地

の自然」に目を向け、実践を重ねてきたが、近年、研究員の異動が激しくなり、これまでの実践の成果が継承自身不明確になりつつある。また、これまでの実践に一区切りをつけ、研究の相点を委ねて新たな方向へ進むという考えも出てきている。

そこで、過去の実践における成果を中心に、検討のめざすことを本年度の第一課題に掲げた。そして、可能な範囲で、今後の研究の方向性を見出し、できれば実践にも取り組んでいきたい。

小学校低学年の場合、低・高が分離してから歴史が長く、幅広い実践が行われていながら、中・高が「果物の電圧なんて...」

果物の電圧なんて... まさか0.1Vもあるなんて、とても考えられませんが、思いがけぬようなことで信じられます。まさかトマトで電池のかわりになるなんてびっくりした。こういう実験正直行って好きです。一番驚いたのは、お茶を電気がおきたことだ。このような実験は、予想を超えるか超え、おもしろみがあります。

五部会

本部会の主題「一人ひとりが気づき考える力を育てるための観察実験の工夫」を決定した理由、次のような観点からである。

最近の子どもの場合は、観察実験をしても新しいことをその中から発見したり、なぜだろうと考えたりする姿勢が弱い。

観察実験の工夫、開発などを進めてきた。その間、分取会によっても違いますが、年間10回ほどの集まりをもち、

果物の電圧なんて... まさか0.1Vもあるなんて、とても考えられませんが、思いがけぬようなことで信じられます。まさかトマトで電池のかわりになるなんてびっくりした。こういう実験正直行って好きです。一番驚いたのは、お茶を電気がおきたことだ。このような実験は、予想を超えるか超え、おもしろみがあります。

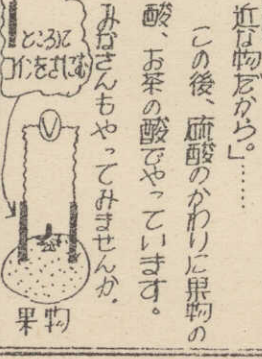
果物の電圧なんて... まさか0.1Vもあるなんて、とても考えられませんが、思いがけぬようなことで信じられます。まさかトマトで電池のかわりになるなんてびっくりした。こういう実験正直行って好きです。一番驚いたのは、お茶を電気がおきたことだ。このような実験は、予想を超えるか超え、おもしろみがあります。

「果物の電圧なんて... まさか0.1Vもあるなんて、とても考えられませんが、思いがけぬようなことで信じられます。まさかトマトで電池のかわりになるなんてびっくりした。こういう実験正直行って好きです。一番驚いたのは、お茶を電気がおきたことだ。このような実験は、予想を超えるか超え、おもしろみがあります。」

信じられない!!

実践記録

この日は蓄電池の中を予想し、実物を見、硫酸と金属なのでコイントラップ「あ、かわ電池」をつくる。「お茶も電池がわりになるなんて。」こんな簡単な装置で電気がおこるなんて驚きだ。電池も電気に電気が流れているなんて不思議だ。特にお茶は身近な物だから。...



観察実験の中でどのような指導の手立てを加えたらよいか、あるいは、教材教具の工夫、開発などを進めてきた。その間、分取会によっても違いますが、年間10回ほどの集まりをもち、

◎四部会云々について、原稿未着のため掲載できませんでした。